

# つくる・まもる・そだてる 淡路さわやか県土



渦潮を 両国の岬 立ちて見ぬ  
山口 誓子

## 風土資産① うずしお 鳴門海峡を流れる 世界三位の速さの潮流が作り出す渦巻き MAP 0

うずしおはどうしてできるのでしょうか？  
鳴門海峡を挟んで太平洋側と瀬戸内海側とは、潮の満ち引きがちょうど反対になり、水位の高くなった方から低い方へと激しい潮の流れが起こります。この激しい流れが狭いところを通過しようとしたとき、緩やかな流れとの境目に「うず」が生まれるのです。  
ちょうどこのうずしおの上に架けられている「大鳴門橋」は全長1,629m、中央支間長876mの吊り橋です。約10年の歳月と1,050億円の工事費を費やし昭和

60年6月に完成しました。この橋の特徴である「多柱工法」は、吊橋の主塔を複数の細い脚で支えるもので、世界的奇観「鳴門のうずしお」を作り出す潮の流れにやさしい構造となっています。  
開通20年目を迎えた本年6月4～5日に管理橋ウォーク等の記念行事が行われ、全国約2,400人の申込者から抽選された200名が参加しました。

世界三大潮流 (潮流の速さベスト3)  
●メッシーナ海峡 (イタリア半島とシチリア島の間)  
●セーモア海峡 (北米西岸とパナマー島東岸の間)  
●鳴門海峡 (淡路島と四国との間)

お問い合わせ：淡路県民局県土整備部  
洲本土木事務所企画調整室  
〒659-0021 洲本市道尾2丁目2-5  
TEL.0799-26-3225 FAX.0799-24-4513  
http://web.pref.hyogo.jp/awaji/sumoto-do/  
メールアドレス：awajikc@pref.hyogo.jp



この記事に関するご意見・ご感想をお待ちしています。  
住所・氏名・年齢をご記入のうえ、ハガキかメールでご応募ください。抽選で10名様に「はばタン」グッズをプレゼントします。上記住所・メールアドレスにはがきかメールでお返しください。  
応募締切：平成17年9月30日  
当日消印有効

**発刊に寄せて**  
季刊誌「淡路さわやか県土」は、淡路島で行っている土木事業やまちづくりを広く一般に知ってもらおうと、淡路県民局県土整備部の若手メンバーが中心となり、年4回・春夏秋冬に発刊します。「歴史とロマンと神話の島」を舞台に皆さんの地元を探訪し、島の原風景や豊かな自然、生き物、慣習、近代化遺産などの様々な風土資産の紹介も交えて、土木事業やまちづくりをお伝えします。  
編集にあたっては、地域の皆さんの情報も数多く取り入れながら発刊して参りたいと考えておりますので、どうぞご協力をお願い致します。



## つかう 下水処理施設の完成 MAP 0

海や川の水質保全と快適な居住環境の実現に向け、県は市町と共に下水道事業に取り組んでいます。県代行下水道事業により、「北淡浄化センター」と「一宮浄化センター」が完成し、7月29日に通水式を行います。この施設の稼働が、人と自然の豊かな調和をめざす環境立島「公園島淡路」づくりの一環となるでしょう。

- 北淡浄化センター：対象人口 8,300人  
処理区域 230ha
- 一宮浄化センター：対象人口 5,660人  
処理区域 171ha

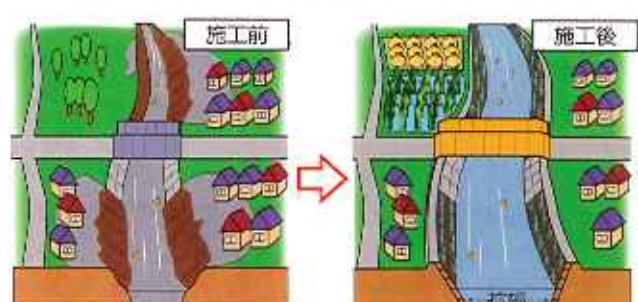


**バクテリア**  
下水中の汚れを固め、吸収・分解してきれいな水と汚れの塊に分ける微生物。この微生物—バクテリアにはさまざまな種類があり、下水の処理状態によって発生する種類が異なります。  
種類：ゾーグレアミダラ

## まもる ~安全・安心な地域づくりにむけて~ 本格的な河川改修がスタート MAP 0-3

昨年10月、島内に甚大な被害をもたらした台風23号。洲本川水系や育波川(淡路市)など特に被害の激しかった河川について、再度の被害を防ぐため、川幅を広げたり、川底を掘り下げる河川改修事業を進めています。  
工事に着手するためには、地域のみなさんに事前に事業内容を説明し、ご理解を得たうえで、土地の境界測量や建物調査を行い、用地買収をしなければなりません。

一日も早く安全・安心な地域づくりを進めるために



は、みなさんのご理解、ご協力が必要ですのでよろしくお願い致します。  
これらの工事の準備が整ったところから順次本格的な改修工事を開始する予定であり、一部の河川ではすでに工事に着手しています。  
また、工事に際しては「環境」も大事なテーマであり、周辺環境の保全や水辺の生き物にも配慮した工法を検討しながら工事を行います。  
なお、洲本川の事業の進み具合については「洲本川改修だより」を定期的に発行していますので、ぜひ一度ご覧ください。

**出水に備えて~速やかに避難~**  
普段から近くの川や裏山の状況などに注意し、避難勧告や指示が発表されていなくても、危険(異常)を感じたら自主的に避難してください。  
常にテレビやラジオで確認し、周辺住民と連絡を取り合い避難勧告や避難指示が発表されたら速やかに避難してください。

**トピックス 全島一斉清掃**  
7月10日に行われた全島一斉清掃を含む7月・11月は、淡路環境美化月間です。清掃活動や花づくり運動などの環境美化運動をはじめ、ごみの減量化や分別、リサイクルに積極的に取り組みましょう。



4年道高の生徒による洲本の清掃活動 (6月1日実施)



## まもる 高潮から市街地を守ろう！ — 福良港 —

MAP 0

福良港は、煙島と洲崎の2つの小島が外海の風浪を防ぐ天然の良港です。しかし、市街地は地盤が低く、台風接近時などの高潮により浸水被害を受けてきました。

洲本土木事務所では、これらの高潮被害を解消するため、排水機場3箇所を計画。第1・第2排水機場はそれぞれ昭和63年度と平成11年度に供用開始し



第3排水機場

ており、第3排水機場についても平成14年度から、港内東側の向谷川下流に建設を進めてきました。現在、機械・電気設備の工事がほぼ完成し、まもなく供用を開始します。



第3排水機場のポンプ

### 「排水機場」

排水機場は、高潮発生時に水門を閉じた際、下流に流れ込む河川の水により周辺が浸水することを防ぐため、ポンプで水を海に強制的に排出する役割を果たします。現在建設中のポンプは、出水に対し速やかに、流量の変化に対応した運転が出来る特性があります。

## つくる 主要地方道の整備 — 洲本南淡線 —

MAP 0

淡路島最南端の道路「洲本南淡線」は灘・沼島地域住民の大切な生活道路であり、また水仙郷やモンキーセンターなどをめぐる観光道路としても利用されています。

この道路のうち、海岸沿いを走る部分の南あわじ市側については2車線化と歩道が昨年完成しましたが、洲本市側はほぼ直線であるものの局部的に湾曲し、危険な状態でした。そこで今回、湾曲部に橋を架け見通しがよくなり、安全な道になりました。



施工前



施工後

畑田新橋  
鉄筋にはサビ止めを、コンクリートには塩水浸透防止の塗装を行い、耐久性を高めています。

## まもる 地すべりと地下水の関係 — 灘地野地区 —

MAP 0

山の斜面が崩れる地すべりには、山の中を流れる地下水が大きく関わっています。

下の写真は南あわじ市灘地野地区に設置した集水井の写真です。

直径3m、深さ約30mの井戸を掘り、水抜きパイプで地下水を集めて、周囲の地下水を下げることで山の斜面を安定させています。

さらに、斜面に直径1m程度の鉄の杭を打ち込んだり、災害を防止する規模や地域の特性に合わせていろいろな工法があります。



3m

## 淡路の土木・建築遺産を探ねて(第1回) ～南あわじ市健康広場前の水路分水～

MAP 0

旧三原町の健康広場前の道端に鉄筋コンクリート造の円形分水路があります。

明治時代末期に神代・市・榎列の3か村が灌漑用水を得るために上田池ダムの築造を県に陳情し、昭和7年に念願の同ダムが竣工したことに伴い、水路分水が考案されました。

この分水路は中央が井戸のような構造になっており、本流からの水は底から上昇し、円周上に開けられた26個の孔から均等な流れとなって周囲の溝に溢れ出します。周囲の溝は水利権者の持ち分に応じて仕切られており、そこから敷設された配水管を通じて流れて行く仕組みです。

水戦争を見事に解決した技術者の知恵は、現在も当時の姿を残し私たちの暮らしを支えています。



## ふるさとの風景 淡路鉄道から始まった(その1)

MAP 0

かつて、淡路島に電車が走っていたことをご存知でしょうか？

廃線から約40年、我々の先輩達はその後の鉄道敷などを道路や公園などのまちづくりに役立てました。

昭和から平成にかけての風景の移り変わりと合わせ、これらの足跡を一つひとつ探っていきます。

淡路鉄道に関連する貴重な思い出や資料をお持ちの方は、淡路県民局県土整備部までご連絡ください。(連絡先/表紙右上参照)

【主な歴史】	
大正 3年	起工式
大正11年 11月	鉄道営業開始(洲本口～市村)
大正14年 6月	洲本～福良間全通
昭和20年 8月	太平洋戦争終結
昭和21年 8月	鉄道線電化決議
昭和23年 2月	電化工事完成
昭和41年 9月	鉄道廃止



写真提供/淡路交通

## ● 島内最大の芝生広場(約4.5ha) ● — 県立淡路島公園 —

MAP 0

広大な芝生に青い空。  
お弁当をもって皆さんも出かけてください。



なお、毎月第3火曜日には、ハイウェイオアシス館東側花壇で午前10時30分からボランティアによる花壇の手入れや植替えを行っています。当日は、動きやすい服装と軍手持参で花壇にお集まり下さい。(事前申込み不要)雨天の場合は、当日午前8時30分以降にお問い合わせ下さい。

◇問い合わせ/県立淡路島公園管理事務所(担当:中村)  
TEL.0799-72-5366



写真提供/淡路交通



# つくる・まもる・そだてる 淡路さわやか県土

発行：平成17年11月18日

お問い合わせ：淡路県民局県土整備部  
が本土木事務所企画調整担当へ  
〒956-0021 本市塩屋2丁目4-5  
TEL.0799-26-3225 FAX.0799-24-4513  
http://web.pref.hyogo.jp/awa/sumitodo/  
メールアドレス：awaji@d.pref.hyogo.jp

秋号  
Autumn  
VOL.2

この記事に関するご意見・ご感想をお待ち  
しています。  
住所・氏名・年齢をご記入のうえ、ハガキ  
がメールでご応募ください。抽選で10名様に  
「はばタン」グッズをプレゼントします。  
応募締切：平成17年12月31日  
(当日消印有効)



## 風土資産 地球のしわ

### 沼島にある1億年前の 鞘型褶曲 (さやがたしゅうきょく) MAP 0

さて、上記の写真はなんでしょう？

これは、1億年前の地球の「シワ」と言われ、今から約10年前に大阪府立大学大学院の前川寛和教授(地質学)によって発見された岩石です。このような地球の「シワ」は、この他にフランス等で発見されていますが、世界的にも稀であり、当時の地殻内部の動きがわかる貴重な資料となっています。

淡路島の地質は大まかに、島北・中部が花崗岩、南部が砂岩ですが、沼島は淡路島とは全く性質の違う結晶片岩から成り立っています。沼島は兵庫県で唯一、淡路島の南端に沿って走っている中央構造線(右図参照)の南側に位置しています。中央構造線

の南に沿って九州から関東地方まで細長く伸びている「三波川帯」と呼ばれる変成帯※に属しているため、沼島はこの結晶片岩からできているのです。

なお、現地までは山道の途中から斜面を下って行き、海岸まで降ります。歩いて見に行くには案内人が必要です。

※変成帯：広域変成作用による変成岩が帯状に連なった地帯。千枚岩・結晶片岩などが数百キロメートルにわたって分布する。広域変成帯。

鞘型褶曲(地球のシワ)とは  
大陸プレートが地球の内部に向かって引きずり込まれる時に、そこに乗っている地層が波状に曲がり、その曲がった部分の切断面が同心円構造の渦になって現れたもの。



## 花も実も美しいクサギ(臭木)

“クサギ”は、日当たりがよく適度な湿り気があれば、淡路島内どこにでも生える落葉低木です。葉に臭気があるこの臭木は、関心を持たれることが少ない木ですが、代表的な救荒植物で、新葉をゆで水にさらすと食用になります。夏には樹冠を覆う白い花(写真①)や、



香りと蜜に集まるアゲハ蝶。秋には星形で真赤に光るガクの上に実る藍青色の実(②)や紅葉などが魅力的な木です。

また、開いてすぐの雄しべが花粉を出す雄性花から、雌しべが他の花粉を受け取る雌性花に変わる自然の妙(③)も観られます。



臭木は種で増殖しますが成長が早く剪定にも耐える強い木なので、自然環境の修復や花の公園づくりにも役立つと思います。

※取材：洲本の文化財審議委員 南光重敏氏

## 土木の現場見学会 8.21

土木事業に理解を深めていただくため、島内の小学生とその保護者を対象に、洲本川の浚渫工事と県道洲本五色線の道路災害復旧工事の現場見学会を開催しました。

浚渫工事の現場では、参加者が2隻の船に分乗し、川底の浚渫とその土を佐野海岸沖に投入する状況を間近に見学しました。

また、道路復旧工事の現場では、実際に土木作業用の重機に触れたり、乗ったりして、その機械の大きさや頑丈さを体感しました。



(1) バックホウ浚渫船による洲本川の浚渫



(2) 県道洲本五色線が原で直取土砂を搬送する(ワーシャベル)(五色町地区)

見学会を通じて土木工事の迫力を体感してもらい、これから大人になっていく子供たちに土木事業に関心を持って頂けたよい機会になりました。

## トピックス ホタル舞う川づくり～鮎屋川での取り組み～ MAP 0

鮎屋川(洲本市鮎屋)では、昨年10月の台風23号による災害復旧事業を進めています。この地域は、鮎屋の滝に代表されるように、もともと自然豊かな地域で、工事区間でも、水害に負けず、今年もホタルが元気に舞う姿が見られました。

鮎屋川の工事をきっかけにして、「ホタルや魚など生き物が生き続けられる素晴らしい川にしよう」「子供たちに夢を」と、地域の人たちが立ち上がりました。10月10日、鮎屋連合町内会主催の「ホタル救出イベント」が開催されました。親子連れ

など約70人が参加して、ホタルのえさとなるカワニナを集め上流に放流したり、魚をつかまえました。「魚、触るの初めて!」と歓声をあげることもたち。楽しいひとときは、皆さんの鮎屋川に対する想いとなって、よりよい川づくりへとつながることでしょう。



カワニナを集める子どもたち



# 11月18日は 土木の日

## 土木の日をご存じですか？

くらしを支える土木の世界をみなさんに正しく理解していただくため、11月18日を「土木の日」とすることが昭和62年に定められました。  
11と18という数字を漢字で書いてみると、「十」と「一」で「土」、「十」と「八」で「木」という字で成り立っています。また、明治12年に日本工学会が創立された日でもあります。



護岸整備

水管による洪水の被害から人々の暮らしを守るため、堤防を高くしたり、川幅を広げるなどの整備を行っています。また、川の生き物が住みやすい、自然に配慮した川づくりも行っています。



緑化活動支援

沿道などの公共空間で花づくりをする花づくりグループを、花苗資材の提供等により支援しています。



道路安全

路面や道路側溝の清掃、補修、照明灯具の修繕、ガードレール設置や交換などの道路の維持管理や歩道の設置を行っています。



海岸整備

高潮や台風の影響から人々の暮らしを守るため護岸の新設や補強を行っています。また、海岸をより利用してもらうために海水浴場などの整備もしています。



防砂施設

土石流から人々の命を守るため、防砂堤、保固工等の防砂施設の整備を行っています。



ダム施設

洪水時に河川流量を調節(カット)し、下流河川の流量を低減させ、洪水被害を軽減するためのダムの管理を行っています。



河川災害復旧

昨年10月の台風23号で、洲本川流域をはじめとする多くの地域で大きな被害を受けました。再び被災することのないよう被害を受けた地域の1日も早い復旧をめざして、河川改修工事を進めています。



道路改良

道路利用者の方が安全にかつ便利に通行できるように、道幅が狭い場所を広げたり、見通しを良くしたりして整備を進めています。



開発・建築指導

県民の方々の住みよい環境づくりのために、都市計画法・建築基準法等に基づく許可及び建築確認等の審査業務を行っています。



公園整備

みなさんのレクリエーションの場としての施設整備を進めるとともに、その利用についてもみなさんと話し合っていていくようにしています。



港湾整備

旅客船や貨物船が利用する埠頭や港湾を利用する人が憩える緑地などの整備を行っています。



## 淡路の土木・建築遺産を探る(第2回) MAP ①

### ～明治の距離標 里程標～



洲本市堀端筋の弁天さんの赤鳥居のそばに、高さ約210cmの花崗岩製の標柱があります。これは、明治6年に政府が各府県ごとに正確な里程の調査と元標の建設を命じたことにより設置された“里程標”です。当時、街道を旅する人々にとっては大変重要な道しるべであったと思われます。この標柱の4つの面には次のように刻字されています。

このことから、少なくとも岩屋、志筑、由良、市村、福良には同様の標柱が設置されていたことが分かります。

- (正面) 神戸元標 江 拾五里貳拾丁四拾九間六分
- 岩屋標柱 江 八里二拾五丁拾三間七分
- (左側面) 志筑標柱 江 貳里三拾三丁四拾三間七分
- 由良標柱 江 貳里拾丁三拾三間八分
- (右側面) 市村標柱 江 三里二拾三丁二拾七間九分
- 福良標柱 江 五里拾八丁五拾九間一分
- (裏面) 明治三十五年三月建設 津名郡洲本

また、各里程標には、県下の里程標の起点となる神戸元標(当初は国鉄神戸駅近くの相生橋西詰の南側にありました)からの距離が記されています。

このほか、島内では、広田南の交差点や炬口の国道付近等でも里程標をみることができます。

## MAP ② ふるさとの風景

### 淡路鉄道から始まった (その2)

昭和41年9月に鉄道が廃止となり、最初に鉄道敷がまちづくりに利用されたのは、現在のジャスコ南側の約180mの区間でした。県道洲本南淡線は、当時、国道から塩屋筋を経て常盤町筋を抜け洲本市役所前に通じていました。

その頃、常盤町筋では、道幅が4.5mと狭く一方通行規制を行っていたにもかかわらず、大型車が通ると歩行者が民家の軒下で一時的待避しなければならない状況でした。

そこで、鉄道廃止の前々年(昭和39年)、



幅12mの堀端線を計画、県が整備し昭和42年4月に供用を開始しました。

しかし、開通当初は、踏切が取り払られ通りやすくなった旧道に交通が集中し、当時の新聞は、この幅の広い街路が駐車場代わりに使われていると伝えています。



昭和35年、塩屋筋の踏切に自動運搬機が設置された(写真提供: 宗 虎男氏)

紙箱の概要(洲本駅～塩屋筋踏切間)



# つくる・まもる・そだてる 淡路さわやか県土

発行：平成18年2月23日

冬号  
WINTER  
VOL.3

お問い合わせ：淡路県民局県土整備部  
洲本土木事務所企画調整担当へ  
〒656-0021 洲本市馬場2丁目4-5  
TEL.0799-26-3225 FAX.0799-24-4513  
http://web.pref.hyogo.jp/awaji/sumatodo/  
メールアドレス：awajikd@pref.hyogo.jp

この記事に関するご意見・ご感想をお待ち  
しています。  
住所・氏名・年齢をご記入のうえ、ハガキ  
かメールでご応募ください。抽選で10名様に  
「はばタン」グッズをプレゼントします。  
応募締切：平成18年3月31日  
当日消印有効

のじぎく兵庫国体



## 風土遺産 絵島 ～国生み神話を語る自然の造形～

MAP ①



岩屋層堆積当時の日本列島周辺の古地理と古第三紀の貝形虫化石産地  
図提供：松原尚志研究員  
(県立人と自然の博物館)

この島をご存知ですか？これは国生み神話に登場する「おのころ島」とも伝えられている絵島です。淡路島の北の玄関口岩屋港のすぐ東にあり、東西22m、南北60m、高さ20mの砂岩でできた小島です。独特の岩模様は長い年月、風と波にさらされてできたもので、まさに自然の芸術品です。近くの大和島とともに淡路の誇る景勝地として知られています。

また、この島は神戸層群岩屋層とよばれる約3500万年前（古第三紀始新世後期）の地層からできており、岩肌に見られる赤褐色の模様が特徴的です。この模様は地層中の鉄分が風化によって砂岩の表面に浸み出してできたものです。

絵島から貝化石を産することは100年以上前から知られていましたが、昨年暮れ、新種を含む貝形虫

の化石が発見されました。日本で九州以外から古第三紀の貝形虫化石が見つかったのは初めてで、まだ詳しく解明されていない本州付近の古第三紀の海の世界を知る資料として注目されています。

### 豆知識：「貝形虫」とは？

貝形虫は大きさ0.3～3ミリの小型の甲殻類で、古くは古生代カンブリア紀（約5億年前）から知られています。世界で3万7千種以上が知られており、現在でも海のほか湖沼の底や水草・海藻の上などに生息しています。海の温度や深さ、海藻の様子など海環境によってすむ種が変わることを応用して「示相化石」として用いられています。



岩屋層から見つかった貝形虫化石の新種トラキレピリス・アワジエンシス 写真提供：山口龍彦氏(金沢大学)

## のじぎく兵庫国体

大会のマスコットキャラクター、「はばタン」が生まれてからほぼ3年。いよいよのじぎく兵庫国体が今年の9月30日、のじぎく兵庫大会が10月14日から開催されます。

淡路島内では正式競技3種目、公開競技1種目、デモスポ競技7種目、兵庫大会競技3種目が洲本市、淡路市、南あわじ市の各地で行われ、これに向けての準備が着々と進められており、県土整備部では会場周辺の環境整備等を行っています。

「ありがとう」心から・ひょうごから」をスローガンに、一緒に国体を盛り上げていきましょう。

## AWAJI ISLAND MAP



## 美しいなぎさモデルロードの整備 ～県道福良江井岩屋線～

MAP ②③

## 美しいなぎさモデルロードの整備

淡路は周囲を海に囲まれ、海岸に面した道路が多いことが特徴です。なかでも淡路西海岸（サンセットライン）を縦断する県道福良江井岩屋線は慶野松原、五色浜、多賀海岸など景観に優れた地域が続いています。洲本土木事務所ではこのような淡路らしく美しい自然に調和した道路の整備を進めています。



工事前

完成後



完成後

工事前

なかでも、多賀海岸は今秋に開催される「のじぎく兵庫国体」においてハーフマラソンの会場となる予定です。洲本土木事務所では国体の開催にあわせて、多賀海岸の老朽化したガードレールを道路から海岸を見通せるガードパイプに更新しました。

## 風車型の花が咲く サカキカズラ (榊葛)

サカキカズラは常緑蔓性の木で、葉が榊の葉に似ていることから「榊葛」といいます。兵庫県版RDB（レッドデータブック）2003には、県内の自生地は淡路だけで希少、Cランク（存続基盤が脆弱な種）となっています。榊葛の蔓は木の上高く登っているので余りその姿を見かけませんが、蔓には節があり混生する林内でも他の葛と区別できるので、よくよく観ると、南部の山地や沼島ではそう珍しい植物ではあ



りません。榊葛をフェンスに絡ませると常緑の葉は美しい緑の垣根と

なり、5月頃には風車のような小花が無数に咲いて、黄色い花の垣根になります（写真①）。花には香りがあるので蝶などがよく来ます。

花の後、全長20cm程の実ができ、冬には割れて毛のある種が散ります（写真②）。そのため林内や山道には小生えがよく見つかります。



※文・写真ともに、体の植物研究家南光重規氏が提供。

## トピックス 日本の原風景の創造 ～白楽の森水車公園～

MAP ④

かつて、日本の至る所で水車が回る風景が見受けられました。これは、自然の力を利用することで暮らしを豊かにしてきた生活の知恵であったとも言えます。

平成16年10月、五色町鮎原三野畑地区は、三野畑川の氾濫により、幸いにも人命には影響はなかったものの、生活の糧である田畑や日常生活を支える道路、橋梁などに甚大な被害を受けました。この復旧工事について地元の人々と話し合いを進めていた折「昔は、この地区には水車があった。子供たちに昔の暮らしを伝えたい。」との提案があり、三野畑川に水車を設置することになりました。

去る2月8日には、地元の皆さん方主催の水車完成を祝う会が開催され、地域の復興に向けた取り組みが始まりました。

この水車が地域の復興の足がかりとなり、日本人が生活してきた歴史を伝える施設となることを願っています。





## 災害からの道路復旧

洲本市下加茂から五色町都志までをつなぐ「主要県道洲本五色線」は、平成16年の台風23号によって鮎原吉田地区の山の斜面が崩壊し、7,000㎡の土砂が約50mにわたって道路を覆いつくしました。

さらに、山の表層には無数の亀裂が生じ、斜面崩壊の危険性が高まりました。このため、崩れた土砂の撤去作業に加え、再発を防ぐため山の斜面を緩い勾配にする必要がありました。

これらの工事に要する時間は約1年。しかし、この道路は路線バスが走り、通勤や通学等の交通量が多い重要な路線で、長期間の通行止めはできません。そこで、洲本土木事務所ではまず「仮橋」を設置することで、住民の皆様の通行路を確保することとしました。

仮橋は土砂崩落箇所を避けるように2本架設し、台

## — 県道洲本五色線 —

MAP ⑥

風発生から2ヶ月弱の年の暮れに完成供用しました。その後、本格的な復旧工事を行い、約1年後の昨年12月17日から元のように通行できる状態となっています。



土砂崩落箇所を避けるように架設した2本の仮橋

## 地すべり災害から暮らしを守る

### — 淡路市柳沢地区 —

MAP ⑦

淡路市柳沢地区では、一昨年の台風23号により発生した地すべり災害を防止するため、対策工事を進めています。

下図のように山の斜面が崩れる「地すべり」を止めるためには、斜面に「鋼管杭」を打ち込みます(杭工)が、普段みなさんの目にふれることはほとんどありません。鋼管杭とはどのようなものか実際に柳沢地区で打ち込む鋼管杭を見てみましょう。

右の写真は工場出荷を待つ鋼管杭の写真です。直径475mm、板の厚さは12mmあります。一枚の鋼板をローラーで徐々に円筒形に整形し、あわせ目を溶接

した後、所定の長さに切断します。工場では、トラックで運べるように5~7mの長さで切断しますが、現地ではこれらを継ぎ足して11~14mの長さの杭を地面に打ち込みます。柳沢地区では、鋼板を約100トン使用した80本の鋼管杭を打ち込む予定です。斜面に打ち込まれた杭は目には見えませんが、「縁の下の力持ち」となって安全で安心な暮らしを支えてくれることでしょう。



鋼板を円筒形に整形しあわせ目を溶接します。

整形する前の鋼板



地すべりを抑止するための工事模型図

二場出荷を待つ鋼管杭

## 淡路の土木・建築遺産を探って(第3回)

MAP ⑧

### ～大正の道路元標～

空が見えないほどに高速道路が縦横に走る都心において、都市景観を取り戻すために「日本橋に青空を」と小泉首相が発言したことが、新年早々話題になりました。上空を高速道路に覆われたその日本橋の中央部分には、「日本国道路元標」と記されたプレートが設置されています。前号では、明治の「里程標」について紹介しましたが、今回はその後、大正時代に作られた「道路元標」のお話です。



淡路市立行徳小学校前の日本国道路元標

大正8年に最初の「道路法」が制定されたことに伴い、路線の起点・終点・通過点を表示する「道路元標」が、市町村ごとに1箇所設置されることになりました。この元標は、内務省令により、25cm角で先端は丸形、高さ60cm、材質は石材などの耐久性のあるものを使用することと定められたので、容易に判別することが出来ます。その後、昭和27年に現行の「道路法」ができ、道路元標という制度自体は廃止されましたが、近代道路網の整備に大きく貢献しました。現在でも、淡路市下司や室津、尾崎など、島内に複数の道路元標が残っています。

## ふるさとの風景

MAP ⑨

### 淡路鉄道から始まった(その3)

鉄道時代の洲本市中心部への主なアクセスルートは、国道から洲本橋や銀橋を経由するルートと電車に乗り洲本川鉄橋を渡るルートが併用されていました。しかし、昭和41年に淡路鉄道が廃止されると、朝夕の通勤ラッシュ時における道路の通行状態が悪化しました。このため、塩屋筋から三合橋に西進する洲本川傍線を活用するとともに、鉄橋のあった場所に新たに橋を架け国道に接続する物部曲田塩屋線の都市計画がまとめられました。

この計画に基づき、陸上部では昭和54年から鉄道敷を利用した道路工事がスタート、続いて橋の工事が行われ昭和63年に3径間の「潮橋」が完成しました。

また、旧の鉄橋については、その土台となる基礎についての文献が残っていませんでしたが、この度、台風23号による緊急対策事業により、河床の掘下げが進むにつれ、80年前に建設された橋の基礎部分の遺構が明らかになることでしょう。



洲本川鉄橋  
上層工が7径間の単線鉄橋(単線)だった。下層工が石橋構造でできていた。(写真提供: 森忠夫氏)